

令和5年度大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

<p>所属名</p>	<p>表現活動教育系</p>
<p>研究課題名</p>	<p>「おもしろ漢字」に基づく認字教育の研究及び提案</p>
<p>研究課題概要</p>	<p>認字教育とは漢字を見るだけで覚える教育で、それに対して現状行なわれている漢字教育は書いて覚える写字教育である。研究活動の目的は認字教育を小学校1年生～2年生に普及することである。</p> <p>幼児が言葉を覚える3歳から9歳の間に漢字を教えると非常に多くの漢字を覚えることが中国の幼児教育・小学校教育からその実績が証明されている。日本では小学校1年生に写字80字、2年生に写字160字を教えている。それに対して、中国では小学校1年生に認字950字・写字350字、小学校2年生では認字850字・写字650字を教えている。中国では認字教育は小学校ではごく当たり前の授業として取り扱われている。中国の認字教育の現状を学び、その効果をぜひとも小学校1年生・2年生の教育に導入したいと考える。</p> <p>日本における漢字教育の効率化は極めて重要な課題である。3～5歳での漢字教育は困難であるため、小学校1・2年生を認字教育の主要な対象とすることから始めたいと思う。そのためには認字教育の効果を研究者や小学校の先生にご理解いただきたいと思う。表意文字としての漢字の文化特性を日本の小学校教育の全般の改善のための一助としたい。将来的には小学校1年生～6年生・幼稚園・学習塾やWEBU教材での導入も視野に入れておきたい。認字教育の展開は多様な取り組みを通じて深まりを見せることが期待される。</p> <p>私は日本の小学校1年生・2年生に認字教育でもっと多くの漢字を教えるべきだと考えている。児童の頃に多くの漢字を教えると論理的な思考ができるようになり、他の教科の学力向上も促すことになる。論理性をもつ漢字を多く知るとは、表音文字を使う諸外国の文化に比べて優位性をもつことができ、漢字かな交じり文や書道を有する我が国の文化向上を促進するものである。</p> <p>以上の認字教育に対する認識を基にして、小学校の先生方に認字教育を認識していただくためのホームページ(<a href="https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~zhangli">https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~zhangli</a>)を立ち上げた。その目的は、現在行っている附属小学校の認字教育の模擬授業を含めて、賛同いただいたいくつかの小学校の先生に認字教育の模擬授業をしていただき、教えた児童の正解率を調査することである。その為に、認字教育模擬授業用のツール(教える漢字を電子黒板で大きく見せる資料・音読みと訓読みの漢字の発音・児童たちに説明する漢字の使用例・正解率の調査を書き込む一覧表など)を作成した。</p>

**研究課題の構成員  
(リーダーに※)**

出野 文莉(表現活動教育系)※  
金子 瑛(附属天王寺小学校)